

四種混合予防接種のお知らせ



この通知は、**生後2か月になるお子さん**の保護者の方にお送りしています。
予防接種は、感染症からお子さんを守るために非常に効果が高い手段です。このお知らせと、小冊子『予防接種と子どもの健康』をお読みいただき、予防接種の必要性をよく理解した上で、お子さんの体調が良い時に予防接種を受けましょう。四種混合の予防接種はジフテリア（D）、百日せき（P）、破傷風（T）、不活化ポリオ（IPV）の混合ワクチンで、同封いたしました『八王子市個別予防接種実施医療機関一覧表』のうち、定期に がある医療機関で接種することができます。接種の際は、必ず母子健康手帳を持参しましょう。

【予防する病気の特徴】

ジフテリア

菌の飛沫感染により高熱、喉の痛み、犬吠様の咳、嘔吐などを起こし喉に偽膜を形成し、呼吸困難や窒息を起こすことがあります。発病後、毒素による心筋障害や末梢神経炎を起こすことがあります。

百日せき

菌の飛沫感染により最初は鼻水や軽い咳のカゼのような症状を示します。やがて連続的に咳き込むようになり、呼吸困難になることがあります。また、低酸素脳症や肺炎などの合併症により死亡することがあります。

破傷風

土の中にいる菌が傷口から入り感染します。菌が体の中で増えると口が開かなくなり、やがてけいれんを起こし、治療が遅れると死亡することがあります。患者の半数は、自分では気付かない程度の小さな傷が原因で発症しています。どこの土の中にも菌がいますので、常に感染の恐れがあります。

ポリオ

ポリオは『小児まひ』とも呼ばれ、ポリオウイルスによって神経が侵され筋肉が麻痺します。ほとんどの場合は発症しないか軽いカゼのような症状ですが、ウイルスが血液を介して脳や脊椎に感染した場合、麻痺を起すことがあります。ポリオウイルスは人から人へ感染します。感染した人から便とともに排出されたウイルスが経口感染し咽頭や腸で増殖します。感染者のうち100人中5～10人はカゼ様の症状や発熱に続き、頭痛や嘔吐の症状が現れます。また、感染者のうち1,000～2,000人に1人の割合で手足の麻痺が現れると言われています。

【ワクチンの効果】

ジフテリア

ワクチン接種により、ジフテリアの罹患リスクを95%程度減らすことができると報告されています。

百日せき

ワクチン接種により、百日せきの罹患リスクを80～85%程度減らすことが出来ると報告されています。

破傷風

ワクチン接種により、100%近い方が十分な免疫を獲得すると報告されています。

ポリオ

日本では、1960（昭和35）年に、ポリオ患者の数が5千人を超え、かつてない大流行となりましたが、生ポリオワクチンの導入により流行は収まりました。1980（昭和55）年の1例を最後に、現在までポリオウイルスによる新たな患者は出ていません。

【対象期間】

生後3か月（3か月の誕生日の前日）～7歳5か月（7歳6か月の誕生日の前日）

【接種回数】

4回（1期初回接種1～3回と1期追加接種1回）

【接種間隔】

1期初回 **1回目**（中20日以上） **2回目**（中20日以上） **3回目**
（標準は3か月～11か月で）

1期追加（3回目接種から6か月以上（標準は1年～1年6か月の間）空けて） **追加**
（標準は1歳6か月～2歳5か月で）

【複数のワクチンの同時接種】

複数のワクチンの同時接種については、医師が判断します。必要性や効果の説明を十分に受け、保護者の同意の上接種してください。

【保護者の同伴】

接種日当日は、保護者の同伴が原則です。予診票には保護者が責任を持って記入・署名してください。止むを得ず保護者以外（祖父母等の家族）が同伴する場合には、委任状が必要です。事前に保健所健康政策課へご連絡ください。



【接種する日の持ち物】

母子健康手帳 健康保険証（乳幼児医療証）

【接種することができる医療機関】

別紙の医療機関一覧の「定期」にある医療機関へ電話で予約し、接種を受けてください。
また、**町田市、日野市、多摩市、稲城市が契約する医療機関においても接種ができます。**接種を受けようとする医療機関や医療機関がある市のホームページ等で確認し、予約をしてから接種を受けてください。
なお、特別な事情により、市外（町田市、日野市、多摩市、稲城市以外）の医療機関での接種を希望する場合は、事前の手続きが必要ですので保健所健康政策課へお問い合わせください。

【予防接種の受け方】

接種前

接種を受けようとする実施医療機関へ予約をしてください。
接種日当日に八王子市に住民登録がある方が対象です。
接種日前日は入浴し、当日は健康状態を確認し清潔な衣服を着用してください。
予診票を接種医療機関で受け取り、保護者が責任を持って記入・署名してください。

接種後

母子健康手帳に記入された接種の記録の確認をしてください。
接種後30分程度は医療機関でお子さんの様子を観察するか、すぐに医師と連絡がとれるようにしてください。
接種した部分は軽く押さえる程度にしてください。もむ必要はありません。
接種当日は激しい運動を控えてください。入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすらないでください。

【接種することができないお子さん】

発熱している。37.5以上は接種できません。
重篤な急性疾患にかかっていることが明らかである。
麻疹（はしか）、風しん、水痘（みずぼうそう）またはおたふくかぜにかかり、治ってから4週間以上が経過していない、もしくはこれらに感染している確率が高い。
生ワクチンを接種してから中27日以上経過していない。4週間後の同じ曜日から接種可能（BCG、ロタウイルス、麻疹風しん混合（単独も）水痘（みずぼうそう）やおたふくかぜなど。）
不活化ワクチンを接種してから中6日以上が経過していない。1週間後の同じ曜日から接種可能（ヒブ、小児用肺炎球菌、日本脳炎、インフルエンザやB型肝炎など。）
以前に、接種液の成分でアナフィラキシー（注）を起こしたことがある。
医師が適当でないと判断した。
～ に該当する場合は、医療機関に行かずに予約の変更（延期）をしてください。

【医師と相談が必要なお子さん】

心臓血管系、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患がある。
過去の予防接種で2日以内に発熱や全身性発疹などのアレルギーを疑う症状が出たことがある。
接種液の成分に対してアレルギーを起こす恐れがある。
今までにけいれんの症状を起こしたことがある。
今までに免疫不全の診断がされている場合や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる。
輸血やガンマグロブリンの注射を受けて3か月以上が経過していない。
ガンマグロブリンの大量投与を受けた場合には6か月以上

【副反応と健康被害救済制度】

接種後の副反応は、局所反応として接種した部位の赤み、腫れ、しこり等があります。この局所反応は、数日で自然に治まることが多いです。しこりは少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。全身反応としては、発熱、鼻水やせき、下痢、不機嫌、発疹が出ることもあります。
非常にまれですが、アナフィラキシー（注）などの重大な副反応があるといわれています。
通常反応のほか何らかの異常（けいれん・高熱など）が強く出た場合には、速やかに医師の診察を受け保健所健康政策課へ連絡してください。万が一、定期予防接種を受けて重篤な健康被害が発生し認定された場合には、予防接種法の規定に基づき、健康被害に対する給付が行われます。

（注）アナフィラキシー：通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のこと。顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、息が苦しい、嘔吐などの症状やショック状態になるような、激しい全身反応のこと。